2000.1.24

原子力先端科学技術分野は原子力の傘から脱出して独自の文化圏を形成すべき時ではないか

大同工業大学　澤岡　昭

1．原子力研究には、原子核反応を利用する原子力エネルギーに関する固有の分野、人工知能、放射線防護や生体への放射線影響の研究のような原子力利用に不可欠な分野、粒子加速・レーザー等のような、原子力と深い関係にある先端科学技術分野がある。原子力の名の下にこれらの研究予算のとりまとめを行う行政のテリトリーは実に幅広いものがある。

2．上記の先端科学技術分野の担当部分は原子力の傘の下で育ち、必要に応じて独自の世界の傘を開いたり、他分野の傘に加わることによって活動資金を得てきた。

3．原子力予算が拡張し、そこに何かの夢が感じられる時代には、それなりに原子力の傘の下に入ることが意味あることであったが、現状はどうであろうか。

4．粒子加速や高出力レーザーのような先端科学技術分野には、膨大な研究開発経費を必要とする。しかも、その研究開発が国にとって必要であることは何となく分かるが、経費に見合う経済効果を説明することが困難である場合が多い。このつじつまを合わせたり、国民の応援を得るためには、そろばん勘定が難しい「夢」、「ロマン」の要素を必要とする。ある先端分野に夢を感じるのか、感じないのかは、その国の国民性であり、文化であり、またその認識は時代とともに変化している。

5．残念ながら、我が国では急速に「原子力の傘」の下で文化を育てることが極めて困難になっている。良質な後継者の確保のためにも、原子力先端科学技術分野の大部分は、原子力の傘から脱出して、独自の文化圏を構築することが必要なのではないだろうか。

以　上